

1 教育

項目	中期目標	中期プラン				総括(2014~2017年度)		
		ロードマップ				プラン内容	実施結果報告	達成度 %
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度			
1	研究力に裏付けられた専門教育の提供 研究時間確保を促進し研究成果を教育に反映させる仕組みの展開					①研究・知財戦略機構を中心とした研究活動の推進 ②授業コマ数削減策等検討 ③各学部専門科目の体系化等によりディプロマポリシーを具現化したカリキュラムの改訂を実施	①研究活動の推進については、研究・知財戦略機構を中心として推進され、科研費をはじめとした外部資金の獲得に見られるように、着実に成果をあげている。 ②研究時間を確保するための方策の1つとして、2015年10月に学長方針として示した全学的カリキュラム改革の実施とこれに伴う当時の現状コマ数からの2割削減を目指す方針に基づき、達成目標とする2021年度に向けて、各学部でコマ数の削減に係る検討が行われた。平行して、2017年11月には、学長のもと「教員責任授業時間及び授業コマ数の削減に関する検討ワーキンググループ」を設置し、教員の研究時間確保に向け鋭意検討を進めている。 ③上記のカリキュラム改革の一環として、各学部ともディプロマポリシーの再検証を行いつつ、これを具現化するためのカリキュラムの見直しを進めている。	60%
2	全学的な教養教育基盤の整備による初年次教育・教養教育の提供 学部間共通科目の再編・充実による全学的教育プログラムの展開					①総合的教育改革を推進する委員会の下に全学共通カリキュラム検討WGを設置 ②全学共通カリキュラムの設置検討 ③2017年度を目途に科目運用開始	①②③ 全学共通カリキュラムについては、教養系新学部構想との関係もあり、第1期の期間を通じて検討が進んでおらず、検討WGを設置する段階には至っていない。しかし、1-②で記載した全学的カリキュラム改革の実施とこれに伴う当時の現状コマ数からの2割削減を目指す方針に基づく検討を進めていく中で、必ずや学部間の協力が必要となり、全学共通カリキュラムの設置が求められるようになると考えられる。こうした方向性のもと、現状の学部間共通カリキュラムの再編成・整理統合を行い、新しい全学共通教育の在り方を検討する。	30%
3	ICT活用によるユビキタス教育の提供 e-Learningコンテンツの充実					①すでに歴史のあるメディア授業を安定的に運用する。運用にあたっては、コスト削減を検討する。 ②メディア授業の新規開講にあたっては、利用学部と十分に調整し、無駄のないように開発し、開講する。 ③現在、スポーツ特別入試合格者に入学前教育を実施しているが、それをベースに推薦入試合格者、初年次教育等に応用する。 ④eプレゼン・コンテストを通じて、学生のプレゼンテーション力、海外協定校との交流でコミュニケーション力を鍛えているが、この活動を継続していく。 ⑤ICTを活用し、アクティブ・ラーニング、学修時間の確保等、昨今求められている課題に対応する。 ⑥ユビキタス教育を実質的に運用するために、運営委員会体制を検討し、必要に応じて規程改正等行う。	①②③⑤ 2016年度、まずはICTを活用したアクティブ・ラーニングに限らず、現在本学で行われている授業の中から、「教育効果を高めるための工夫」を取り入れている授業の事例を調査し、事例集として公開することから着手し刊行した。これを各教授会を通じて各専任教員に配付・説明(兼任講師には講師控室を通じて配付)することで、アクティブ・ラーニングの実践に向けた啓発活動を行うことができた。また、事例集と収集された授業の中には、ICTを活用したアクティブ・ラーニングも含まれており、今後これらを本学に広く展開していくには何が必要であるのかの分析を行った。この他、③の取組については第1期の期間を通じて継続的に実施し、成果をあげている。 ④については2015年度まで実施した。 ⑥については、全学的な情報化戦略を策定することを目的として2017年度に情報化戦略協議会が設置されている。	60%

1 教育

		中期目標	中期プラン				総括(2014~2017年度)		
項目	目標	ロードマップ	ロードマップ				プラン内容	実施結果報告	達成度 %
			2014年度	2015年度	2016年度	2017年度			
4	フィールドスタディ、問題解決型教育等の実践型教育・少人数教育による、強く輝く「個」の育成	アクティブ・ラーニングを実践する教育プログラムの開発					①教育開発・支援センター内のアクティブ・ラーニング推進体制の構築 ②アクティブ・ラーニングを実践する教育手法の開発 各教員の社会ネットワークを活用したフィールドスタディ等の検討 ③各学部によるアクティブ・ラーニングの実践	①②③ 2017年度に導入された1コマ100分を基本とする新授業時間割及び2学期4タームを軸とする新学年暦の開始に合わせて、教育開発・支援センター内において「全学版シラバス作成要領」を作成し、その中で新授業時間割、新学年暦を活用した柔軟な授業設計、教授方法における工夫についてのガイドラインを示した。また、同年に教務部委員会のもと「総合的教育改革関連施策等検討ワーキンググループ」を設置し、その中での検討課題の一つに「新授業時間割(モジュール)を活用したアクティブ・ラーニングの推進」を掲げて鋭意検討を進めている。	70%
5	大学と付属校との教育連携の充実・推進による、大学・付属校相互の発展	学部進学に効果的な付属校教育連携事業の展開					①明治大学及び明治高校・中学校教育連携推進委員会において教育連携事業の改善案検討 ②明治高等学校における教育課程改訂 ③改善後の高大連携事業の実施	①②③ 生徒の学部選択につながる高大連携事業の一環として、「高大連携講座」の配当年次を高等学校2年生に変更するため、校則を一部改正し、各学部に対して経過措置や運用方法を周知した。この他に、各学部の設置した講義科目を受講する「プレカレッジプログラム」、長期休暇を利用した資格・検定試験合格や進路決定を目的とした「サマーセミナー・ウインターセミナー」を拡充すべく、教育連携推進委員会等において意見交換を行った。進路指導に関しては、他私立大学の学部学科との併願について、一定の方向を見出した。また、大学のグローバル化に呼応した施策を継続するとともに、高等学校内に「高等学校基礎学力テスト対策検討委員会」を設置し、文部科学省や私立中学高等学校協会からの要請等に対応した教育課程の見直しを進めている。	90%

1 教育

		中期目標	中期プラン				総括（2014～2017年度）	
項目	目標	ロードマップ				プラン内容	実施結果報告	達成度 %
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度			
6	生涯教育の機会の提供及び高度専門職業人の養成	魅力的な生涯教育プログラムの開発及び高度専門職業人養成のカリキュラム充実	生涯教育プログラム開発検討		規程改正手続	新規プログラム実施	①生涯教育プログラムの開発・検討 ②関係規程改正手続 ③新規学習プログラム実施	80%

1 教育

項目	中期目標	中期プラン				総括(2014~2017年度)		
		ロードマップ				プラン内容	実施結果報告	達成度 %
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度			
7 大学院教育の充実と人材育成機能の強化	学際的カリキュラムの構築及び大学院生に特化したキャリアサポート事業の推進					①教育改革推進プログラムの検討、外部資金獲得申請 ②学際的カリキュラムの構築 ③キャリアサポート事業の展開	75%	
	司法試験・公認会計士試験の合格者数・合格率の向上及び経済や社会の問題を解決できる人材の養成					①アクションプラン・ロードマップに基づく課外講座の実施による在学学生・修了生の合格率向上 ②不断の入試制度改革による優秀な受験生の確保 ③ガバナンス研究科：最新の理論や知識を習得するとともに、世の中の現実の動きに対応した実践的な能力を身につけられるような講義科目を「政策研究科目群」等で積極的に提供する。 ④グローバル・ビジネス研究科：(1)中小企業/ファミリービジネス特化型カリキュラム編成、(2)英語科目整備、(3)海外大学との相互プログラム実施、(4)国際認証取得、(5)学内外との連携	80%	